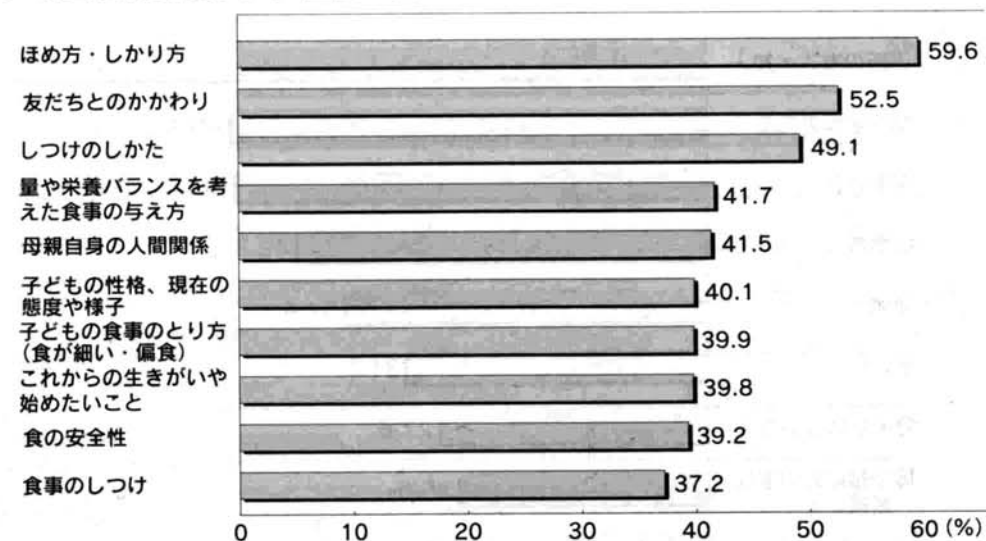


しつけ・食生活・対人関係が育児の関心事

※ここでは、本報告書の各章から代表的なトピックスを九つ要約した。

●図1-1 現在の育児の気がかり（上位10位）



▶ ほめ方・しかり方、しつけのしかたで悩み、友だちとのかかわりも心配

現在の育児の気がかりとして、母親たちが最も多くあげたのは、子どもの「ほめ方・しかり方」59.6%であった。

また、第2位の「友だちとのかかわり」は「子どもの性格、現在の態度や様子」の内容とも相互関連しており、園や学校などでの友だちづきあいを気遣う親の思いが表れていた。上位10位の中では、「食事と食生活」に関するものが4項目と一番多く、乳幼児期から続く関心事であることがわかる。

その他、育児生活を通しての姑や親戚、近所の人などと「母親自身の人間関係」が第5位で、入学・入園を機に「これからの生きがいや始めたいこと」が39.8%で第8位になっていた。

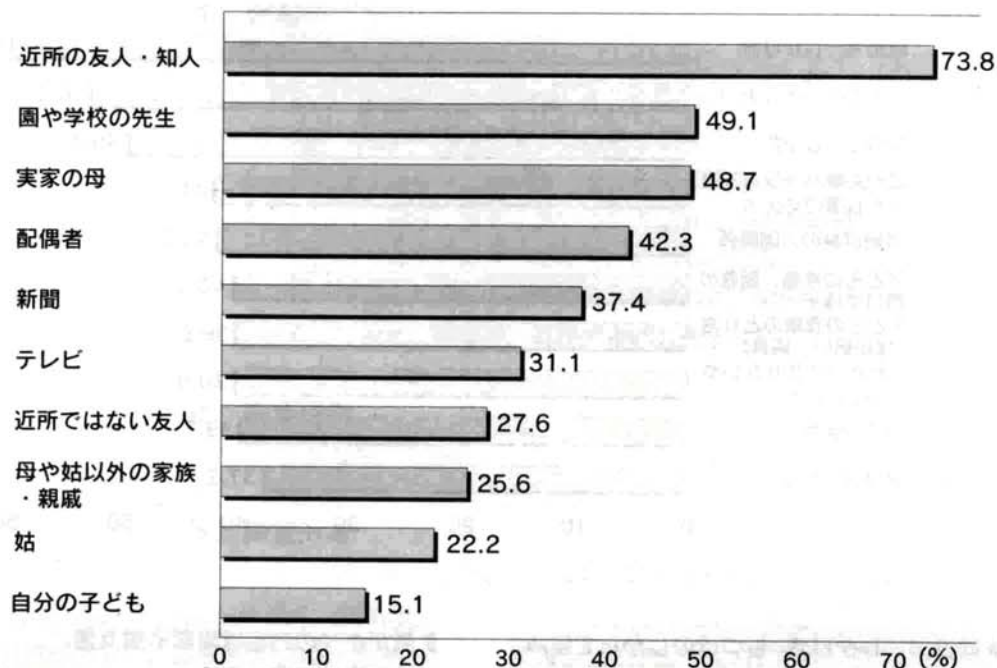
▶ 気がかりの内容は学年や男女差、出生順位で変化する

育児不安の内容は、子どもの年齢とともに変化し、第1子の母親のほうが第2子以降の母親より全般的に気がかりの数値が高かった。子どもの学年別で見ると、小学校入学を機にあいさつやお礼などのしつけの気がかりが急増していた。

さらに、男女差では、男子の比率が高かった「着がえ」「おねしょ、トイレのしつけ」は、女子の1.7~1.5倍があり、その他、「アレルギー」や「歯磨き・手洗いの習慣」、「食事のしつけ」など、主に生活習慣が男子の悩みの中心となっていた。一方、女子のほうは日々の練習を必要とするピアノや楽器のレッスンを受けている子どものうち、女子の割合が72.3%（男子は27.7%）であることとも関連してか、「習い事の家庭での練習や宿題」「習い事や教材の選び方や与え方」などの比率が高かった。

友人・家族・先生・マスメディアなどが教育情報源

●図1-3 しつけ・教育情報源（上位10位）



信頼する情報源は近所の友人・知人、実家の母、配偶者、先生

一般的なしつけ・教育情報源の入手先は上図のように多様であった。しかし、とくに信頼している情報源の上位三つの中で、第1位にあげられたのは、①近所の友人・知人②配偶者③実家の母 ④園や学校の先生⑤近所ではない友人⑥母や姑以外の家族・親戚であった。また、母親の就業状況によって信頼する情報源が大きく異なっていた。専業主婦は常勤者に比べて、「近所の友人・知人」「配偶者」の比率が高く、常勤者は、近所の友人と接する時間が少ないこともあり、「園や学校の先生」「実家の母」「近所ではない友人」へ信頼を寄せており、パートタイマーは、その中間の数値を示していた。

「子育ての参考にしたい人」としつけ・教育情報源との関連性

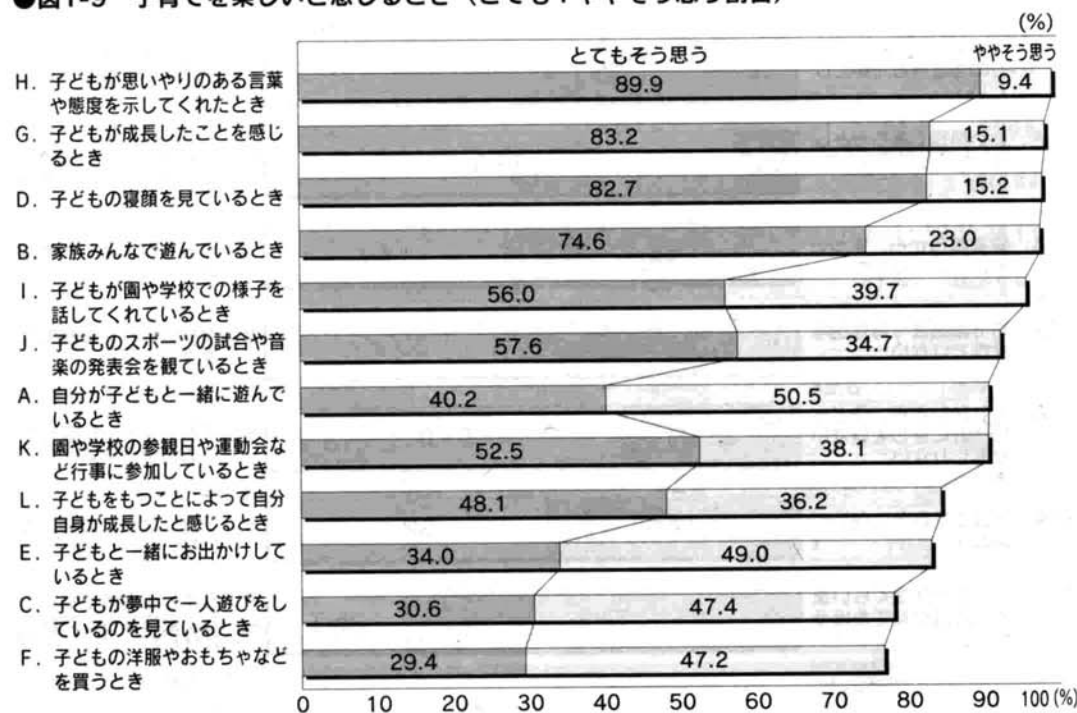
「子育ての具体的な目標やお手本、参考になる人」としては、①実家の母②近所の友人・知人③子どもの友だちの母親などがあげられていた。

また、信頼する育児情報源と子育ての参考にしたい人との関連性をみると、「配偶者、姑と園や学校の先生」を除いて、「一番の情報源」を「子育ての参考にする人」にあげた人が最も多かった。

母親たちは、自分の生活行動範囲の中で出会う、気が合う友人や信頼できる子育ての先輩を、子どものしつけや教育の規範として取り入れながら自分自身の情報ネットワークを形成していた。

子どもが思いやりを示してくれると子育ては楽しい

●図1-9 子育てを楽しんでいるとき（とても+ややそう思う割合）



子どもを客観的にみられる場面で感じる子育ての楽しさ

子育てを楽しんでいると「とてもそう思う」割合が高い項目をあげると、①「子どもが思いやりのある言葉や態度を示してくれたとき」89.9%②「子どもが成長したことを感じるとき」83.2%③「子どもの寝顔を見ているとき」82.7%などであった。つまり、母親が直接的に子育てにかかわっている場面や母親自身が自分の成長を実感するときよりは、子どもから自分がいたわってもらったり、子どもから離れて客観的に眺めている場面で、母親たちは子育ての楽しさや子どもの存在の嬉しさを感じていることがわかった。

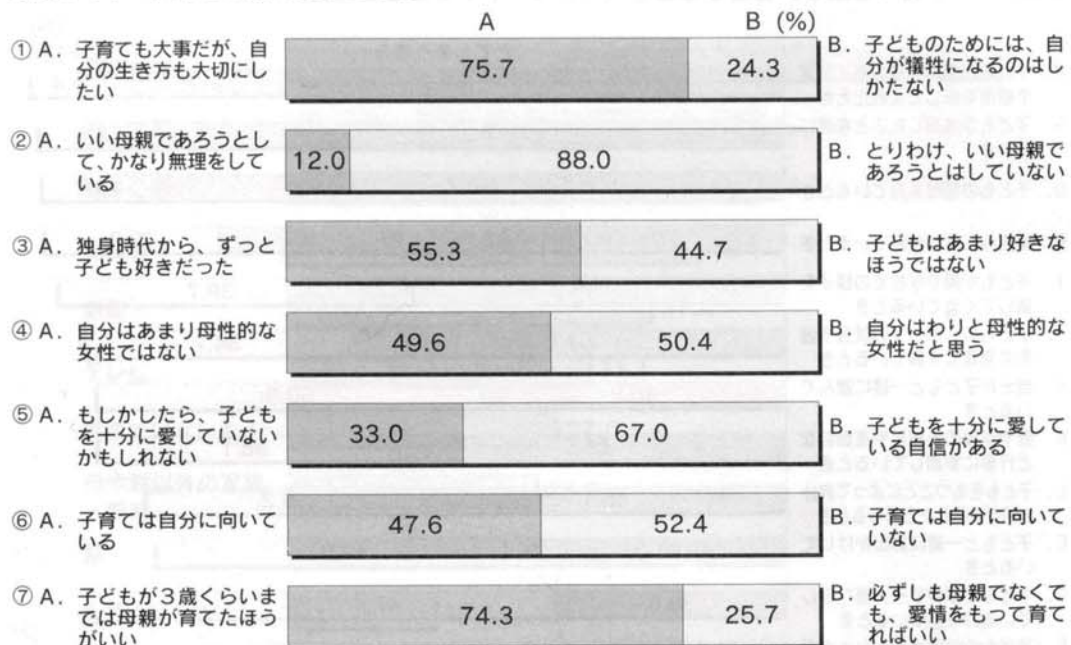
学年によって変化する子育てが楽しいと思う内容

子育てを楽しんでいると「とてもそう思う」割合を学年別に比較すると、学年とともに上昇する内容は、「子どもと一緒に出かけしているとき」で、数値が下降するのは、「子どもが一人遊びをしているのを見ているとき」「子どもの寝顔を見ているとき」「子どもが園や学校での様子を話してくれているとき」だった。

また学年別に比較すると、第5位は、年少児では「園の様子を話してくれているとき」だが、子どもの習い事やスポーツクラブの開始時期と関連して、年長児では「子どものスポーツの試合や音楽の発表会を観ているとき」になっていた。

子育ても大事だが、 自分の生き方も大切にしたい

●図1-11 子育て生活の受けとめ方



「とりわけ、いい母親であろうとはしていない」が88.0%

子育てに関する七つの考え方について、それぞれ相対する選択肢から自分の気持ちに近いほうを選んでもらった。最も多かったのが「とりわけ、いい母親であろうとはしていない」88.0%、次が「自分の生き方も大切にしたい」75.7%、「子どもが3歳くらいまでは母親が育てたほうがいい」74.3%となった。

調査の対象は園児と小学校低学年児の母親であるため、子どもの入園・入学後は、自分の趣味や生きがい、仕事を始めたいと考えていることが、これらの数値に表れていた。

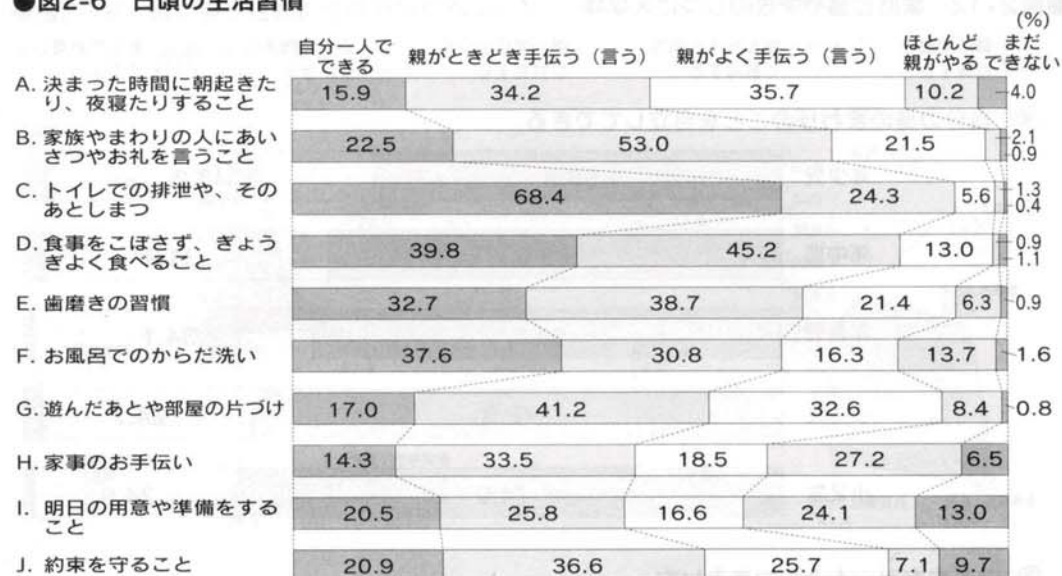
「3歳くらいまでは母親の手で」支持は 専業主婦81.3%、パートタイマー71.9%、 常勤者46.5%

母親の就業状況で数値に明確な格差が出ていたのは、「自分の生き方も大切に」と「子どもが3歳くらいまでは母親が育てる」で、就労時間と大きく関連していた。とくに、「子どもが3歳くらいまでは母親が育てる」は、専業主婦が81.3%、パートタイマー71.9%、常勤者46.5%であった。

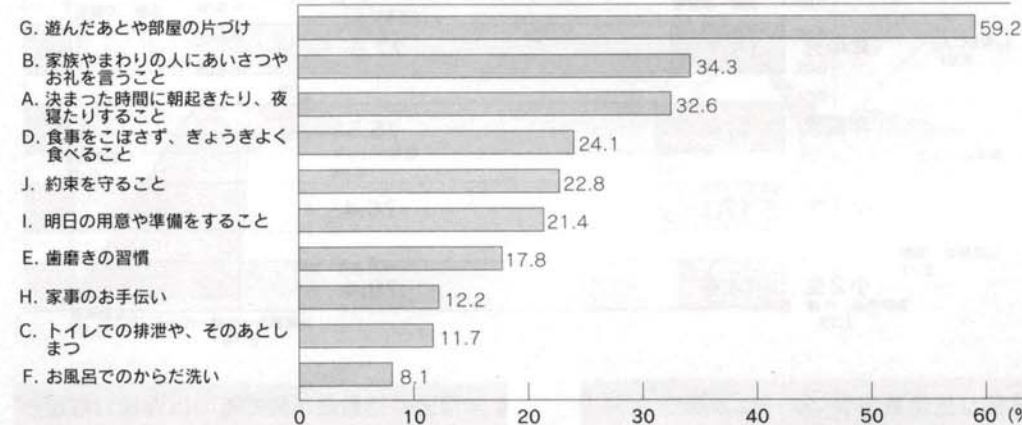
しかし、数値ではこのような大差が出ていても、現在の選択に何の迷いもないわけではない。3歳くらいまではと子育てに専念している母親も、また、他の人に子どもを託して外で働いている母親も、それぞれが現状に悩んでいる様子が他の設問の自由記述にも表れていた。

もっと自立してほしい 「あと片づけ」「早寝・早起き」

●図2-6 日頃の生活習慣



●図2-9 もう少し自立してほしいこと



自立度が高い排泄と食事

子どもの日頃の様子や生活習慣の中で「自分一人のできる」のは「トイレでの排泄や、そのあとしまつ」68.4%、「食事をこぼさず、ぎょうぎよく食べる」39.8%で、その一方、「ほとんど親がやる」のは、「家事のお手伝い」27.2%、「明日の用意や準備をすること」24.1%であった。

男子にもっと自立してほしいと望む親

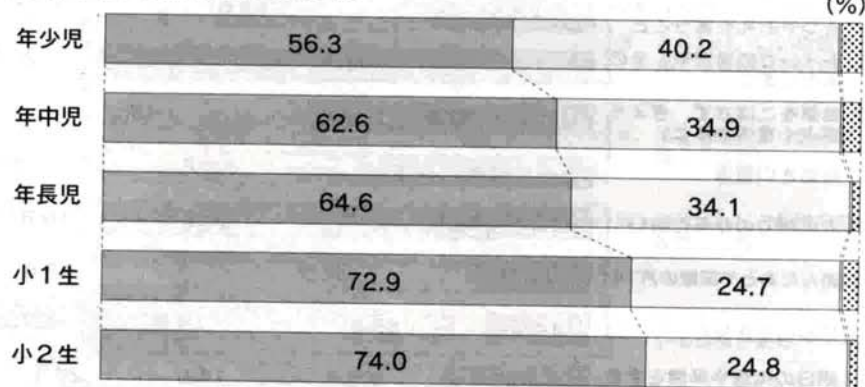
「自分一人のできる」割合が低かった「早寝・早起き」や「遊んだあとや部屋の片づけ」は、そのまま「もう少し自分でやってほしいこと」の上位にあげられていた。また、男子のほうが、「食事のマナーや歯磨き」などの自立度が低い現状と関連してか、男子の親のほうが子どもに自立を求める比率が高かった。

園や学校と家庭でのしつけ・ 教育の連携とすみ分け

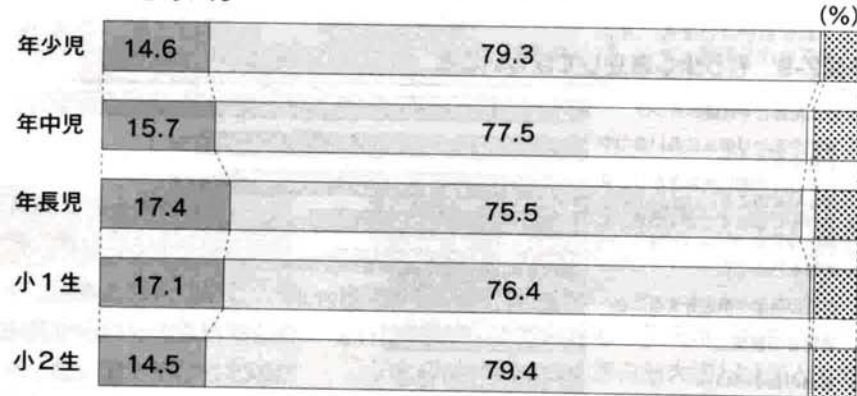
●図2-12 家庭と園や学校のしつけ×学年

■親が家庭で教育する □親と先生が両方で教育する □園や学校の先生が教育する ▨塾や専門家にまかせる ●あえて教育しなくてよい

③ 自分の身のまわりのことを自立してできる (%)



⑦ 友だちなど、人とのつきあい方 (%)



■基本的な生活習慣やマナーは家庭で

「親が家庭で教育する」と多くの親が回答した項目は、「朝起き・夜寝る時間などの生活リズム」「偏食せず、ぎょうぎよく食べられるようにする」「自分の身のまわりのことを自立してできる」「あいさつやお礼の言葉などがきちんとできる」など、基本的な生活習慣やマナーであった(上図)。

■学習面や社会性を育てるのは連携しながら

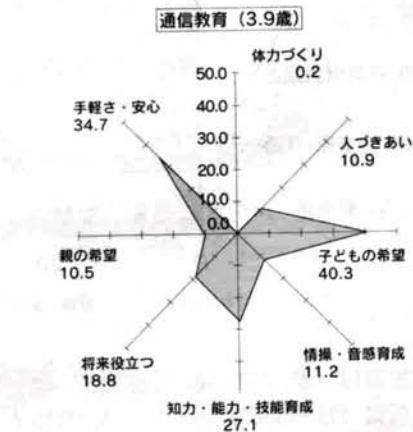
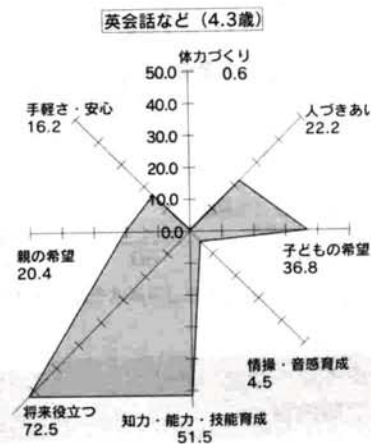
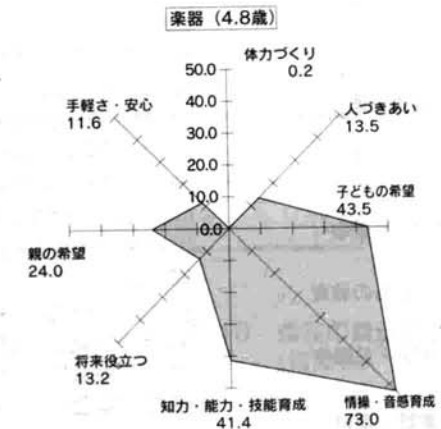
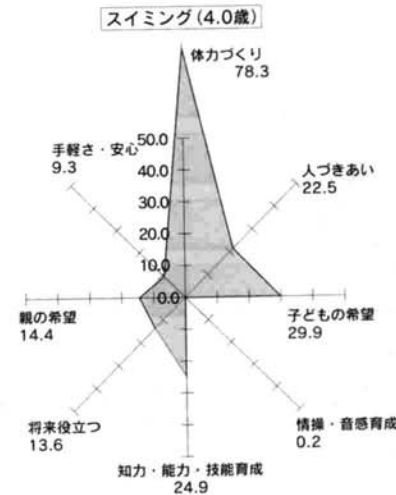
一方、「親と先生が両方で教育する」のは、「学習への意欲や興味・やる気など」「個々の子どもがもつ能力を引き出すこと」「友だちなど、人とのつきあい方」「社会的な道徳心を育てる」などがあげられていた(下図)。しかし、園児から小2生まで含むため、学年や親の就業状況による母親の意識に格差がみられた。

習い事は親子で楽しめ、 友だちづくりができるものを選択

●図2-18 習い事を始めた理由の特徴パターン

※ 数値はポイント

※ () 内は平均開始年齢



①スイミング ②楽器 ③通信教育 ④スポーツクラブ ⑤英会話が上位5位

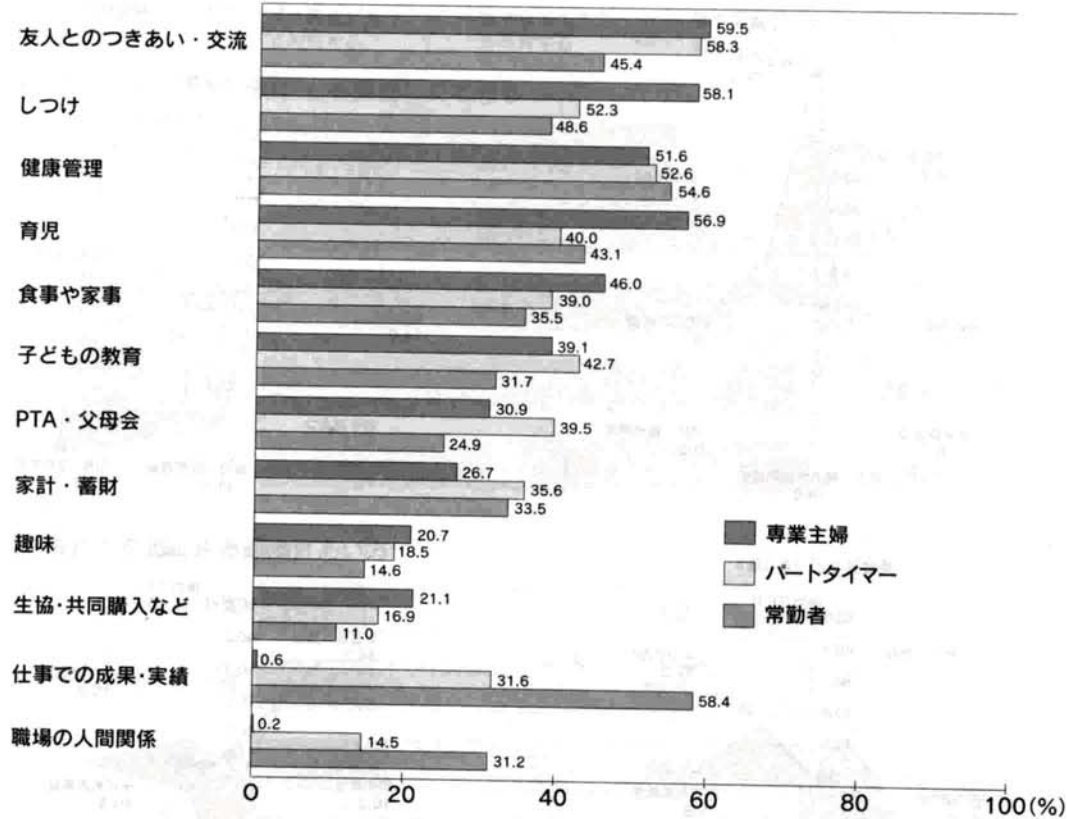
「習い事をしている」子どもは全体の64.9%で、年少児36.2%から、小2生84.8%へと学年とともに割合が上昇していた。習い事の種類としては①スイミング37.7%②楽器20.9%③月1回教材が届く通信教育20.5%④スポーツクラブ15.0%⑤英会話10.3%が上位5位であった。習い事の数も平均1.9個で、年少児1.5個、小2生2.3個であった。

■親子で目的に合わせて 習い事を選び分けている

子どもの習い事を始めた理由は、種類により明確な相違がみられた。上図のように、スイミングは体力づくり、楽器は情操や技能育成、英会話は将来の役に立つ能力育成、そして、家庭で行う通信教育は「友だちもしているので」などの、子どもの希望や手軽さなどが目立っており、親子で友だちづくりができる「人づきあい」が共通した理由だった。

友人との交流・しつけ・健康管理が 上位3位

●図3-2 現在力を入れている活動×母親の就業状況



●専業主婦は「友人づきあい」、
常勤者は「仕事での成果」

現在の生活の中で、専業主婦の活動内容は上位に①友人とのつきあい・交流②しつけ③育児がきて、⑦PTA・父母会⑨生協・共同購入などの活動で、家の近くで友人たちとの交流ができることに集中していた。

一方、常勤者の母親が現在力を入れている活動の上位3位は、①仕事での成果・実績②健康管理③しつけであった。また、⑨職場の人間関係は、専業主婦やパートタイマーの母親の上位10位にはない項目であった。

●パートタイマーは
多彩な活動内容

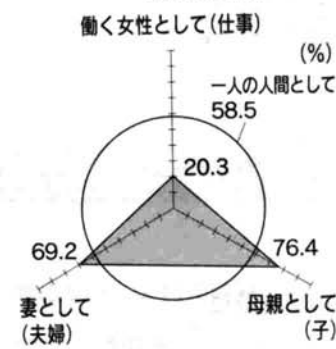
上図で明らかなように、パートタイマーは、常勤者または専業主婦が目立つ項目では両者に追従した数値を示していた。その一方で、パートタイマーが最も高い数値を示す項目としては、「子どもの教育」「PTA・父母会」「家計・蓄財」があり、家庭や子どものことを行った上で経済面も両立させたいという意欲が、まさに、パートタイマーの立場を選んでいる状況を物語っており、彼女たちは趣味やスポーツなどに多彩な活躍をしていた。

全体に高かった 「母親として」の満足度

●図3-14 現在の自己評価

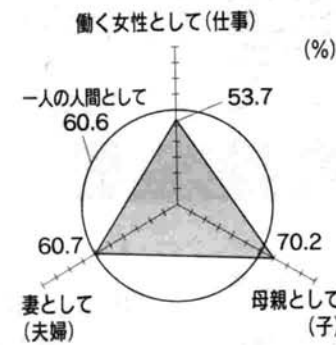
	とても満足している (%)	まあまあ満足している (%)	あまり満足していない (%)	ぜんぜん満足していない (%)
母親として	10.8	62.7	22.7	3.8
妻として	9.2	56.5	27.1	7.2
働く女性として	5.5	32.6	34.0	27.9
一人の人間として	5.3	54.4	34.7	5.6

●図3-16 現在の自己評価
〈専業主婦〉



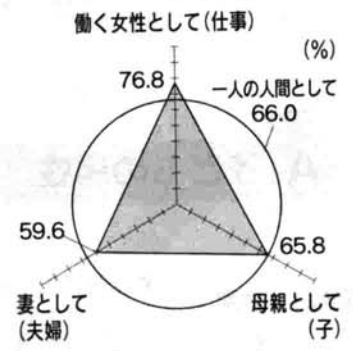
「とても+まあまあ満足している」割合

●図3-17 現在の自己評価
〈パートタイマー〉



「とても+まあまあ満足している」割合

●図3-18 現在の自己評価
〈常勤者〉



「とても+まあまあ満足している」割合

●「母親として」の満足度が
全体的に高かった

母親自身が「母親、妻、働く(活動する)女性、一人の人間」としての四つの側面についての満足度をたずねた結果では、母親としての満足度73.5%>妻65.7%>一人の人間59.7%>働く女性38.1%となった。回答者の6割が専業主婦であるが、園児や小学校低学年の母親は、自分の存在を「母親」としてとらえることでより満足していることがわかった(上図)。

●仕事・子ども・夫のバランスを
よく保つパートタイマー

就業状況別に満足度を分析して、働く女性としてを「仕事軸」、妻としてを「夫婦軸」、母親としてを「子ども軸」とみなし、「とても」と「まあまあ」の満足度の比率を加算して示したのが下図である。三角形に重ねた円が、「一人の人間として総合したときの満足度」であるが、三角形も円も面積が大きいほうが満足度が高くなる。全体としてはパートタイマーと常勤者の数値のバランスが保たれていた。